

キャリア教育に支えられた学校改革 遅刻、退学、特別指導の激減を導く

— 宮城・県立 黒川高校 —

普通科と工業系、農業系による学科構成で、難しい学校運営を強いられてきた黒川高校。特別指導や退学者の多さ、学力低迷、進路実績の不振など多くの課題を抱えていたが、キャリア教育や生活指導などを中心とした学校改革により、劇的な変化を遂げている。

取材・文 / 藤崎雅子

● 実践のKeyword

学校改革

学校目標の
構造化

各分掌の連携

生活指導の
強化

進路の手引き

インターンシップ

連携
コーディネーター

遅刻、退学は3分の1に減少 就職状況も改善

ある教員はかつての同校を「これは、学校ではない」と感じたという。始業や授業開始の時間は無視されがち。まともな授業が成立しにくく、3年間で学力が向上するどころか低下も見られる。教員は毎週のように発生する特別指導の対応に追われる日々…。

それがこの3年あまりの間に大きく様変わりした。同校の校長である倉光恭三先生は変化の状況をこう話す。

「遅刻者数や退学者数は3分の1、特別指導件数は10分の1に減少しています。地域の評価が上がって入学者の定員割れに歯止めがかかり、就職決定率もアップしました。私が最も変化を実感するのは、集会以で整然と並び静かに話を聞く生徒の姿を壇上から眺める時ですね」

大きな転換点となったのは2007年、トヨタ系企業の本社工場移転の発表だ。移転先に最も近い同校に、ものづくり人材育成の拠点としての期待が「気にくらんだ。08年度に民間企業出身の倉光校長が着任。県のてこ入れもあり、工業系学科を充実させる大幅な学科改編が決定した。こうした環境変化が同校の再生に大きな力を与えたことは確かだ。しかし、それだけで改革がなし得たわけではない。09年度に導入されたキャリア教育が柱のひとつとなり、環境変化と相まって順調な改革を支えているといえる。

学校全体の課題を洗い出して 見えたキャリア教育の必要性

改革で重要な役割を果たしたキャリア教育だが、同校は最初から「キャリア教育を導入しよう」と動いたわけではなかった。それがなぜキャリア教育にたどりついたのか、経緯を振り返ってみよう。

同校は以前から規律の乱れや学力の低下に対してさまざまな策を講じてきた。例えば、「進学対応」を掲げての教育課程の大幅な変更。生徒部の提案による「ベル着」運動や、教員二人による授業中の校内巡回。進路指導部による進路ガイダンスの拡大・充実、ジュニア・インターンシップの導入など。これらによって改善も見られたが、学校全体が劇的に変化するまでには至らなかったという。

背景には同校の組織的な難しさがあった。普通科と農業系や工業系の専門学科を併設する同校では、学科ごとに生徒の実態や抱える問題が著しく異なる。普通科高校のように学年全体でまとめることが難しく、かといって専門高校に見られる学科主体で切磋琢磨する動きも出にくい。生徒の特別指導に追われる担当が、「悪事を働くな」「進路未定になるな」といった「しするなかれ」の指導をするのが精いっぱいだったという。

そんななかで進路指導部長の丸山泰史先生は、東京都内のエンカレッジスクール、チャレンジスクールを中心に学校改革に取り組みむ高校を視察する機会を得る。その



School Data

普通科・環境技術科・機械科・電子工学科・農業経営科*・土木科*・電子機械科*(*=3学年のみ、現在募集停止) / 1901年創立 / 生徒数 691人(男子425人・女子266人)
 進路状況(2010年度実績) 大学8.4%・短大1.9%・
 専門学校21.9%・就職58.1%・進路未定9.8%
 宮城県黒川郡大和町吉岡字東柴崎62
 TEL 022-345-2171
 URL http://www.kurokawa.myswan.ne.jp/

Outline

仙台駅の北方約25kmののどかな地域に位置。農学校として創設、新制高校としては普通科と農業科でスタートして以降、学科改廃を重ねて地域のニーズに対応してきた。2010年、大規模な学科改編により創立以来の農業系学科の生徒募集を停止、工業系学科を充実。普通、環境技術、機械、電子工学の4学科構成へ。県の「産業人材育成重点化モデル事業」の一環で、11年度までの3年間、民間企業出身の連携コーディネーターが配置されている。

図1 近年の動向

年度	取り組み
2005	●ジュニア・インターンシップ開始
2007	(トヨタ系企業移転決定)
2008	●倉光校長先生着任 →「黒高マイスクール宣言」 ●キャリア教育導入準備 ●学校設定科目「パワーアップ」試行
2009	●キャリア教育スタート ●学校設定科目「パワーアップ」スタート ●県の産業人材育成重点化モデル校に指定(連携コーディネーター配置)
2010	●学科改編(農業系学科募集停止)

倉光校長先生がキャリア教育の導入を職員会議で表明し、09年度から「キャリア

生活指導や基礎学力育成にも組織的に取り組む

「経験から、全教員で目標を共有して組織的に取り組む必要を痛感したという。」「視察のテーマは『基礎学力の向上』でしたが、学習面だけ取り出して対策をしてもだめだということがよくわかりました。改革が成功している学校では、よく練られた具体的な計画に基づき、学習指導、生徒指導、進路指導の合わせ技で取り組んでいたのです。各分掌がばらばらに動いてもなかなかうまくいかないと感じました」

そこで、生徒の状況把握や企業へのヒアリング等をもとに学校全体の問題点を洗い出し、同校の生徒の実態に合わせて実行可能な目標を3年間分積み上げたところ、「それはキャリア教育と言われているものだった」(丸山先生)という。

図2 キャリア教育全体計画図(概要版)

学校教育目標	「公正・友愛・開拓」を校是とし、勤労を重んずる自主的な実践力と誠実に責任を果たす態度を養い、健全な判断力と社会性を兼ね備えた情緒豊かな人格を形成する				
目指す生徒像	・グローバル化する社会の中で、良き職業人・社会人として働いていける資質と能力を身につけた生徒 ・上級学校での学習に取り組んでいける学力・学習習慣・興味関心を身につけた生徒				
身につけさせたい能力	進路選択を適切に責任持って行える自己理解・情報収集・処理・計画実行の能力 / 働くことへの意思、目的意識、責任感など、広い意味での勤労観・職業観 / 社会規範・マナー・コミュニケーション能力など、社会人としての基礎的な資質と能力 / 職業人として、また上級学校進学後に必要最低限の学力				
各学年の進路指導目標	1学年 基本の学習	2学年 目標設定と行動	3学年 実現と飛躍		
	職業意識の基本を身につけ、基本的な進路情報および進路選択の方法を理解する	職業人としての基本的な技能と、現実的な進路選択に必要な情報と判断力を身につける	適切な職業観・学問観を身につけ、主体的な進路選択を行い、進路を実現する		
各領域における指導(キャリア教育の視点)					
普通・専門教科	学校設定科目 「パワーアップ」	総合的な学習 実習・課題研究	ホームルーム活動	生活指導	
朝学習・1分間スピーチ	清掃活動	学校行事	生徒会・部活動	進路行事	
キャリア教育の推進(実践)のための基盤					
職員研修	指導体制	評価	保護者	地域との連携	小中高の連携

教育の全体計画「の実行に取り組んでいる(図2)。全体計画は、「するなかれ」ではなく「かくあるべし」という生徒像に基づき、系統的な3年間の目標や具体策を整理したもの。生活指導や教科学習を含むあらゆる教育活動を包括している。

同校では倉光校長先生の着任以来、基本的な生活態度と規範意識の定着に力を

入れることをうたった「黒高マイスクール宣言」を掲げているが、キャリア教育の全体計画上でも生活指導を重視しており、全教員で指導に当たる。進路指導部も分掌の領域にとられず、進路ガイダンスや進路通信で将来とのかかわりから身だしなみや生活習慣の重要性を伝えている。

また、「必要最低限の学力の習得」もキャ



図5 ジュニア・インターンシップの流れ

1学年	3月	導入ガイダンス
2学年	4月 (~11月)	進路の手引き「未来へ」誌上にて ●ビジネスマナー講座7回 ●事前指導6回(目的、地域の企業の様子、社内での分業の様子、事前打ち合わせの心掛け等)
	5~6月	実習先希望調査・決定
	8~9月	実習先に提出する履歴書の作成
	9月	社会人卒業生講話
	9~10月	事前打ち合わせ(実習先訪問)
	10~11月	3日間の職場体験
	10~11月	事後指導(お礼状、感想文)

図3 進路の手引き「未来へ」のテーマの例(一部)

1年生	2年生	3年生
<ul style="list-style-type: none"> ● 何で私たちは学校に来なきゃいけないの? ● 将来のために新聞を読もう~企業での頭髪指導~ ● 進路希望別・必要な学力の実態を探る ● 失敗例に学ぶ~進路決定にあたって~ ● ささまざまな仕事と必要な学歴 ● 高卒での就職について ● 大学・短大・専門学校と高校の違い ● リアル人生ゲーム:もし日本の中学生が全部で100人だったら ● 或る高卒就職者の人生~卒業十数年後の姿~ ● はたらく意味・仕事の意味 ● 自動車をつくる ~ものづくり企業たちの分業~ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 進路達成へのセルフチェック ● 就職スキルのセルフチェック ● 将来にかかわるイヤなこと大切な言葉 ● 就職ウラ事情~これ以上はいくら何でも書けません~ ● 今なにをすべきでしょうか? ● 大学・短期大学・専門学校の入試制度概要 ● 進路を考える「働くこととお金・生活とお金」 ● ジュニア・インターンシップ ①目的・概要・心構え ⑤紙上まとめ ● ビジネスマナー講座 話し上手とは、敬語、企業が高校生に求めること、等 	<p>社会人基礎講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスマナー講座 <p>就職編</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オトナとして就職を考える ● 3年生の就職活動の流れと注意 ● 履歴書の記入 ● 面接試験 <p>進学編</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 受験計画を立てる ● エントリーシートの記入 ● 小論文試験:その目的・内容と対策 <p>卒業直前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卒業してからの危機管理

進路の手引き、インターンシップ等
基本的なことをていねいに

キャリア教育として取り組んでいる各

リア教育の1つの解釈だ。09年度から専門学科の1学年を対象に、学校設定科目「パワーアップ」を設定。国語と数学を小中学校レベルから復習して確実に基礎力を身につけることを通じて、学ぶ喜びを感じ、主体的な学習態度を養うことを目指している。

校長、教頭、事務室長および各部長、主任、学科長で組織される校務運営委員会が、キャリア教育委員会の機能ももつことで推進。教員全体が共通認識をもって取り組めるような体制をしいている。

図4 進路の手引き「未来へ」の内容例

はたらく意味・仕事の意味

■仕事についてのお話

ワークシート

ワークシートには、ワークシートを印刷して、下の欄に書き込んでください。

項目	1	2	3	4	5
1. 仕事の種類					
2. 仕事の内容					
3. 仕事の意義					
4. 仕事の楽しさ					
5. 仕事の難しさ					
6. 仕事のやりがい					
7. 仕事の将来性					
8. 仕事の責任					
9. 仕事のやりかた					
10. 仕事のやりかた					

施策は奇抜なものではない。進路に関するものを見ても、ガイダンスや進路の手引き、インターンシップなどオーソドックスなものだが並ぶ。しかしながら、それぞれが綿密に計画され、非常にていねいに実施されている点が目を引く。

「黒高再生への思いを原動力に、学校として当たり前のことにつひとつ取り組んできました。結局はそれが早道だったのではないのでしょうか(倉光校長先生)」

そのていねいさが最もよくわかるのが、進路の手引き「未来へ」だ(図3,4)。「未来へ」の前身は、08年度から学年別に進路指導部が毎週発行していた進路通信だ。「進路指導部に入って企業訪問するようになり、そこで見聞きしたことがすこく興

図6 連携コーディネーターの主な業務

総務	<ul style="list-style-type: none"> ● キャリア教育計画の支援 ● キャリア教育の資料整備
渉外業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業訪問コーディネーター ● インターンシップ渉外事務 ● 求人開拓 ● 県・関連諸機関との連絡調整 ● 社会人講話やマナー講習の講師選定・依頼
対生徒の業務	<ul style="list-style-type: none"> ● 進路相談 ● 面接練習の講師 ● ガイダンス講師

ほか、就職関連事務の補助など

味深かつたんです。貴重な材料を手作業でミクロン単位の加工をして何億円もする製品を作っているんだとか、高校生にこんなことを期待しているんだとか。それを生徒に伝えたくて、進路通信を発行していました(丸山先生)

11年度からは手元に残すため、従来からあった進路の手引きと合体させて冊子にしている。1・2学年版では将来や進路を考えさせるテーマのほか、生活習慣やビジネスマナーも扱う。3学年版は進学・就職別に編集された実践的な対策が中心だ。

また、内容が頭に残るよう、冊子化に伴いテーマごとにワークシートを付けた。生徒は週1回、朝学習の時間に各クラスにて1テーマずつ取り組む。年に数回の進路ガイダンスで行き届かない部分を埋める、進路決定までのペースメーカーとなっている。

さらに、「未来へ」は指導体制の強化にも「役を買っているようだ。教員も「未来へ」をよく読んでおり、それにより視線をそろえて指導することができるという。

「先生方は折に触れて『未来へ』の記事を引用したり、話題を膨らませて自身の経験や考えを話したりされているようです。先生方の理解が、より効果的な指導につながっています(丸山先生)」

また、2学年全員が参加するジュニア・インターンシップは、05年度のスタート当初、教員の負担の大きさから廃止を主張する声もあったが、現在そのような声はほとんど聞かれないという。3年間の流れの中に位置づけ、特に事前指導を系統立てるこ



連携コーディネーター
郷家康雄さん



進路指導部
石川真司先生



進路指導部長
丸山泰史先生



校長
倉光恭三先生

とに留意していることが、その理由として考えられる。

事前にガイダンスや「未来へ」を通じて、マネーや給与を得ることの意味、労働による社会貢献、企業の組織体制など、職業にかかわるさまざまなことについて指導(図5)。各生徒が問題意識をもつて参加できるようプログラムし、事後には感想をまとめさせている。「事前・事後指導もない単発の行事になってしまえば、生徒は受け身にこなすだけで気づきは得られず、教員の負担感だけが残るでしょう。系統立った進行で生徒への効果も感じてか、大変でも必要なことという認識に変わってきたのだと思います」(丸山先生)

連携コーディネーターとの協働でより強力な就職支援へ

同校のキャリア教育、就職指導に大きく貢献している「連携コーディネーター」についてもふれておきたい。県の産業人材育成重点化モデル事業の拠点校である同校には、09年度から3年間、地域社会に貢献する人材の育成と確保を目的として連携コーディネーターが配置されている。民間企業で高校生の採用担当を務めた経験をもつ郷家康雄さんが就任。進路指導部に常駐し、幅広い業務を担っている(図6)。

Interview



2年 生徒会長
今野拓磨さん
(写真左)
2年 生徒会会計
坂井直子さん
(写真右)

変わる学校、自分たちも変えたい、変わりたい

「中学時代に生徒会長をしていた経験から『地元の高校を変えていきたい』という気持ちで入学し、2年の夏から生徒会長をしています。学科間に何となく壁があるところが問題だと感じているので、いろんな人と交流できる機会や行事をつくっていきたいですね。今、自由参加だった文化祭を今年から全員参加型にしたり、少しずつ変えているところ。そうして、みんなが仲良く笑顔になるような学校にしたいです。

将来は文章を書く仕事をしたいと思っています。そのためにはいろんな経験を積むといいと、先生からアドバイスをいただきました。生徒会の経験も、インターンシップで役場に行った経験も役立っていききたいと思います」(今野さん)

「ハフレットに『学校が変わる』というようなことが書いてあって、自分も一緒に変えられたらと思って入学しました。姉には『不良が多いんじゃないの?』と言われましたが、実際は先生も生徒も個性的でいい人ばかりで、楽しく飽きません。服装や頭髮の指導は厳しいですが、それをわかって入学している人が多いので、みんな受け入れていると思います。

私は中学時代まで人見知り激しく、どちらかというと人についていくほうでしたが、今は自分から動くようになりました。きっかけは、生徒会に入ったことのほか、インターンシップやボランティアをしたり、宮城県高校生訪中代表団に選ばれて参加した経験が生きています。自分の成長を感じながら高校生活を送っています」(坂井さん)

力をふまえて「この企業はどうか」と声をかけることもあるという。進路指導部の石川真司先生は、「生徒はわれわれ教員の話は聞かなくても、郷家さんに言われると納得したり、困った時は郷家さんに聞いてみよう」と頼りにしています」と話す。

また、郷家さんは「学校側がこちらの意向や提案をよく理解してくださるので動きやすい」と、フットワーク軽く企業に足を運ぶ。インターンシップや就職活動の際は学校と企業の間につつまざるさまざまな調整を行い、例年苦戦する企業の求人開拓などで成果をあげている。企業との折衝場面で、コーディネーターのひとことで企業側の様子が変わる場面が何度もあったという。「連携コーディネーターの配置は今年度限りですが、郷家さんによって企業の視点

で改善された就職支援体制は今後も残るでしょう」(丸山先生)

学校を信じてねばる生徒が増加

キャリア教育に取り組み始め、進路指導室の状況も変化した。以前は求人票解禁まで進路指導室は閑散としていたが、現在は1、2年生でも進路指導室を訪れる生徒がいる。求人減の打撃もかつてほど受けなくなった。

「以前なら就職試験に一度失敗した生徒は立ち直れない様子でしたが、今はそのような事態でも前に進む発想ができる生徒が増えてきました。生徒がたくましくなると同時に、学校への信頼が高まったのだ

と感じます」(丸山先生)

学校改革が順調に進んでいるからこそ、成績上位層支援や進学指導強化といった新たな課題も浮上している。今後について語る先生たちからは「マネーや意識面が改善された今、学力面の対策で就職をより確実なものにしたい」(丸山先生)、「学校設定科目『パワーアップ』をもつ歩上の学力を目指す内容にしていきたい」(石川先生)など、攻めの姿勢がうかがえる。倉光校長先生もまた、次のステージへの挑戦に意欲を燃やす。

「ここからの進化は今まで以上に難しいでしょう。しかし、改善された現状に満足することなくさらなるレベルアップを図って、良き黒川ブランドを築いていきたいと思えます」